

新党日本代表 田中康夫 質疑

2011/11/11(金) 08:55~09:00

第179回国会 (臨時)

衆議院予算委員会

「TPP集中審議」



さあ、信じられる日本へ。

新党日本

nippon-dream.com

○中井委員長 次に、田中康夫君。
○田中(康)委員 TPPは羊の皮をかぶったオカミ。亀井静香率いる与党統一会派、国民新党・新党日本、田中康夫です。

TPP交渉協議への参加表明をあす十一月十二日からのAPPECの場で日本政府は行うべきでないとする国会決議の実現に関する呼びかけを行いました。いずれも敬称略で五十音順に、社民党の阿部知子、公明党の石田祝稔、自民党の稲田朋美、小野寺五典、国益と国民の生活を守る会の城内実、民主党の斎藤やすのり、国民新党の地下幹郎、日本共産党の高橋千鶴子、無所属の松木けんこう、そして新党日本の私、田中康夫、以上十名が呼びかけ人で、七日月曜日午後四時に会見をもち、国会決議に向けての賛同署名を開始しました。署名第一号は我が亀井静香、第二号はたちあがれ日本、平沼赳夫さんであります。

つまり、みんなの党を除く衆議院を構成するすべての政党、すべての会派の議員が賛同し、その総数は、昨日朝までの実質二日間で二百三十二名に達しました。こちらにパネルがございます。民主党九十六名、自民党九十八名、公明党十一名、共産党九名、社民党六名、国民新党・新党日本四名、たちあがれ日本一名、国守の会二名、無所属五名、計二百三十二人でございます。

一晩考えさせてほしいと昨日おっしゃった野田佳彦さんの感想をまず求めます。

○野田内閣総理大臣 そういう署名があつたという事、また、民主党からも御提言をいただきました。それらを重く受けとめていきたいというふうに思いますが、亀井国民新党代表からも大変親身になった御助言もいただきありがとうございます。そういうことも含めながら決断をしていきたいというふうに思います。

○田中(康)委員 あなたは、もう一日考える理由を、民主党内の慎重にという提言を重く受けとめてとおっしゃったと伺っております。内閣総理大臣であられるあなたは一体どこを向かれるのかということですが、すべての政党、すべての会派の衆議院議員が二百三十二人、TPP交渉協議参加表明に反対する国会決議を求めて署名をしたというのは、これは私はよい意味で憲政史上前代未聞であろうと思います。なのに、一党内の、それも慎重にという単なる願望の声を重く受けとめるのではなく、この署名は明確な意思でございます。まさに政治が機能していない今、国会を機能させるための明確な意思表示であります。

このことを御認識ください。そしてまた、この署名が触媒となって、昨日、自民、公明、社民の三党と国民新党と新党日本の統一会派、そして無所属議員の会派の計五会派が参加表明に反対する決議案を提出しましたが、残念ながら、計二十五名の議院運営委員会は否決しました。民主党と、なぜか共産党の反対であります。

しかし、この決議案提出賛同署名には、民主党の政務三役も、そして議連の民主党理事二名も、委員五名、計七名も名前を連ねているわけでございます。委員長含めて十五名の民主党は、署名していた議連の委員を差しかえて、決議案の本会議上程を否決しました。共産党のお考えは、署名が過半数に達していないからということですが、これはなるほどでございます。ならば、過半数に九人足りない二百三十二人ですから、信念を持たれて、民主党の方々は正々堂々、正心誠意採決に臨んで、本会議での答えを得た上でハワイに向かわれるべきであつたわけでありまして。

すなわち、他の会派、各党は態度を決めていたから差しかえ不要なんです。他方で、民主党は、他党と異なり、TPPに関して、党として機関決定をいたしておりません。だから造反、いえ、署名をした委員に正論を貫かれるのが怖くて差じかけたのではありませんか。これはまさに、自由貿易や自由主義のためにTPPに参加すると野田さんはおっしゃいながら、それと真逆の排除貿易、排除主義、ヨシフ・スターリンもびつくりの弾圧のような形と受け取られかねません。

私は、枯れ葉剤でベトナム戦争に貢献し、遺伝子組み換え作物市場で占有率九割に達する米国モンサント社と昨年長期協力関係を結んだ住友化学で会長を務める日本経団連の米倉弘昌さんとあなただけが手を握り合って進めようとする TPP に、多くの国民は疑問や不安を抱いていると思います。電波放送権も、自由化されれば年間数兆円で取引され、番組の質の低下になります。新聞も、再販制度は非関税障壁と認められて、崩壊状態になります。NHK の税金投入も非関税障壁と言われる可能性を秘めております。

まさに私が本会議で今こそ国会が機能せねばと申し上げた瞬間、与野党を超えて、そしてあなたの前の一年生議員も拍手をされた。それは、まさに、しっかりと議論すると言いながら、国民、議員にも向かおうとしない、そのような政治を機能させねばということだと思えます。

六〇年安保はイデオロギーでありました。今回、私たちの仕事と生活を奪うのか、日本という国家をつぶすのかという日本で初めてのイデオロギーを超えた大きなうねりであると私は思っております。

○中井委員長 田中君、時間が過ぎておりますので、その辺でおやめください。

○田中(康)委員 かしまりました。

民主党の新しいポスターには「ひとつひとつ、乗り越えていく。」と書いてあります。間違っても、一つ一つ崩れ落ちるとならぬよう、私は、ぜひ野田総理に、国会議員、そして国民の意思をきちんと受けとめ判断いただきたい、このように思

っております。

ありがとうございます。

○中井委員長 これにて田中君の質疑は終了いたしました。